フィールドワークを通して大阪南部地域の歴史文化を記録・発信

南大阪・上町台地フォーラム

上町台地や大阪南部地域の歴史文化の魅力を再発見するための調査研究として、同地域での実地調査を行い、それを記録・発信する「南大阪・上町台地フォーラム」。活動期間は平成23（2011）年度～30（2018）年度で、当協会賛助会員や一般市民を対象に、祭礼や遺構などの現地見学や講演会を開催。その内容を、当誌や協会ホームページに掲載したり、21cafeで紹介したりしてきた。その7年間・21回の活動を振り返る。

▶2011年4月22日

四天王寺「聖霊会」

大阪市天王寺区

1400年の歴史をもつ舞楽大法要「聖霊会」は、聖徳太子の命日（旧暦2月22日）に行われる四天王寺でもっとも重要かつ大規模な法要。伽藍の北にある六時堂で仏舎利と聖徳太子の御霊を迎え、法要の間は堂前の亀の池の上に設けられた石舞台で、天王寺楽所（がくそ）による雅楽や舞楽（重要無形文化財）が途切れることなく奉納される。この日は雨天であったため、六時堂内で実施された。5月14日には一般社団法人心学明誠舎主催の聖霊会講演会（講師：南谷美保氏ほか）にも参加した。

四天王寺「聖霊会」での舞楽（六時堂）
（本来は石舞台の上で行われる）

▶2011年7月12日

生國魂神社「枕太鼓おねり」

大阪市天王寺区

神武天皇が九州から瀬戸内海を東上し、なにわの岬（現在の上町台地の北端）に着いたことに起源をもつ生國魂神社（当時はこのあたりまで海だった）。平安時代からの歴史をもつといわれる同社の夏祭りは、「陸」の生玉・「川」の天神と並び称され、明治から昭和初期にかけては1千人を超える「陸渡御」で賑わった。その先頭で邪気を払うのが「枕太鼓」で、赤い烏帽子に法被姿の願人（がんじ：叩き手）の背もたれが大きな枕に似ているところからその名がついた。

生國魂神社「枕太鼓」

▶2011年7月25日

生根神社夏祭り「だいがく」

大阪市西成区

だいがく（台楽または台額）は、清和天皇（850～881年）の時代、難波一帯を旱魃が襲った際、日本60余州の一の宮の御神燈と鈴を付けた櫓（やぐら）を立てて雨乞いをしたら、大雨が降ったことがはじまりといわれる。生根神社のだいがくは高さ20mの柱に約70個の提灯を飾りつけたもので、かつては各所にあったが戦災などで焼失し、現在は同社に保存されている1基のみ。大阪府の有形文化財に指定され、夏祭りの2日間だけ公開される。

生根神社本殿と「だいがく」

▶2011年7月31日

住吉大社「夏越祓神事」

大阪市住吉区

大阪市内の夏祭りの最後を飾る住吉祭で、夏の疫病を払う夏越祓神事（無形文化財指定）の「茅の輪くぐり」を体験。午後5時、美しく着飾った夏越女や稚児らに一般市民も加わり、境内3か所に設えた「茅の輪」をくぐって夏越しのお祓いをした。小出英詞権禰宜による講演もあり、第一本宮での例大祭の模様を見学した。

茅草（ちがや）で自身を祓って茅の輪をくぐれば、暑い夏を元気に乗り切ることができるといわれている。

▶2012年1月11日

四天王寺手斧始め式

大阪市天王寺区

「手斧始め式」は四天王寺の年中行事の一つで、宮大工の仕事始めの儀式（非公開）。飛鳥時代、聖徳太子に招かれて仏教建築の先進地・百済から渡来した工匠・金剛重光が四天王寺造営の正大工職を賜ったことから、現在も株式会社金剛組（本社：大阪市天王寺区）が奉仕している。金堂内の本尊「救世観世音菩薩」の前で、烏帽子に上衣装束姿の正大工らによって、角材に墨を付ける「墨掛け大事」や手斧を打ち込む「手斧打ち大事」などが行われる。

四天王寺金堂での「手斧始め式」

▶2012年5月5日

大念佛寺「万部おねり」と町屋敷

大阪市平野区

大念佛寺は大阪府内で最大規模の木造建築（本堂）をもつ融通念佛宗の総本山で、毎年5月1日から5日に大法会「万部おねり」が行われる。臨終の際に極楽浄土から阿弥陀仏が諸菩薩を従えて迎えに来るのを疑似体験する「聖聚来迎会」（大阪市無形民俗文化財）と、阿弥陀経を1万部唱える檀信徒や有縁無縁の諸霊を回向する「万部会」が合体した大法会で、その見学の後は、平野に古くから残る町屋敷も視察。平野郷の歴史について郷土史研究家・松村長二郎氏の話を伺った。

聖聚来迎会（大念佛寺）

▶2012年7月13日

がんこ平野郷屋敷と杭全神社夏祭り

大阪市平野区

がんこ平野郷屋敷は、江戸時代初期に菜種油商として富を築いた辻本家の本宅（通称：平野郷屋敷）を、がんこフード株式会社（本社：大阪市淀川区）が受け継ぎ、和食レストランとして再利用。館内にある「くらしの博物館」には、辻本家が所有していた絵画や茶器などが展示されている。夕方には杭全神社に移動し、同社の夏祭りで江戸時代から伝わる「だんじり」を視察。平野の9町（9台）のだんじりが、雄壮かつ賑やかに繰り出すようすを見学した。

杭全神社夏祭り「だんじり」

▶2013年7月15日

高津神社と講談「千両の富くじ」

大阪市中央区

仁徳天皇を主祭神とし、上方落語の「高津の富」「高倉狐」「崇徳院」や、歌舞伎、文楽などにも数多く登場する高津神社を参拝。境内にある仁徳天皇の高津宮（たかつのみや）を模した絵馬殿や、250年以上前から現存する神輿庫を見学し、小谷真功宮司から高津宮にまつわる興味深い話を伺った。また、講談師の旭堂南青さんより、高津神社にちなむ「千両の富くじ」も披露され、浪速の人情物語に聴き入った。

小谷真功宮司から絵馬殿の案内を受ける

▶2013年9月19日

住吉大社「観月祭」

大阪市住吉区

中秋日（旧暦8月15日）、住吉大社の反橋（太鼓橋）の上に中秋の名月がかかるなか、橋の上で和歌や俳句を詠み、舞楽や住吉踊りなどが奉納される「観月祭」。その風雅な伝統神事を反橋のたもとで見学した。また、観月祭に先立ち、同社吉祥殿にて小出英詞権禰宜による「住吉さんは和歌の神様 ～お月見によせて～」と題した講演が開かれた。

住吉大社反橋での観月祭

▶2013年11月29日

阿部野神社と花将軍

大阪市阿倍野区

鎌倉時代末期の公卿・武将で、紅顔の美男子であったことから「花将軍」と呼ばれた北畠顕家（1318～1338年）ゆかりの阿部野神社を訪ねた。同社は、顕家の父で後醍醐天皇の信任が厚かった北畠親房（1293～1354年）をご神体とする官社で、父子の墓所。調査隊は北畠父子の生涯をNHK大河ドラマ『太平記』（1991年放送）を観て振り返り、中塚昌宏宮司（当時）の案内で境内を見学。旭堂南青さんによる講談『後醍醐天皇』も聴き、戦乱の歴史を偲んだ。

中塚宮司の案内で境内を見学

▶2014年4月4日

堺市博物館～百舌鳥古墳群

大阪府堺市

堺市博物館では、仁徳天皇陵出土品のレプリカを見た後、学芸員から仁徳天皇陵の築造には16年の歳月をかけて200万人以上が従事したことや、その仕事は苦役ではなく食糧も支給されて和やかに進められたことなど、興味深いエピソードを聞いた。また、堺観光ボランティアガイドの案内で、仁徳天皇陵古墳や履中天皇陵古墳などの百舌鳥古墳群や、奈良時代の高僧・行基によって築かれた仏塔「土塔（どとう）」などを視察。堺の歴史の多様さ奥深さに触れた。

土塔（堺市中区土塔町）にて

▶2014年9月13日

清学院、薫主堂、水野鍛錬所など

大阪府堺市

堺における刀鍛冶などの産業の歴史を、南海電鉄「七道駅」から歩いて探索。日本で初めてヒマラヤを越えた僧侶・河口慧海（かわぐちえかい）が学んだ寺子屋「清学院」や、明治時代から続く線香店「薫主堂」、鉄砲鍛冶屋敷、鍛冶工房の「水野鍛錬所」、山口家住宅（堺市立町家歴史館）、伝統産業会館を視察した。水野鍛錬所では、実際に工房に入って鍛冶職人から説明を受けた。

水野鍛錬所にて

▶2014年11月24日

与謝野晶子や千利休の生家跡など

大阪府堺市

堺市観光ボランティアガイドの案内で、堺の中世の歴史を探訪。与謝野晶子生家跡や、大阪湾の出入口を守るといわれる開口（あぐち）神社、千利休生家跡、納屋（呂宋）助左衛門の居宅を移したとされる大安寺、重要文化財の仏殿（天井に八方睨みの龍）がある南宗寺、南蛮貿易時代のシャム（タイ）から持ち帰った降魔釈迦銅像（ごうましゃかどうぞう）（初公開）のある發光院などを見て回った。昔の堺の人は略奪愛を貫いた与謝野晶子を快く思っていなかったことなど、数々の興味深い話も聞いた。

開口神社にて

▶2015年10月22日

大阪府立弥生文化博物館

大阪府和泉市

「日本の文化と食の源流」をテーマに、和泉市の弥生文化博物館と池上曽根遺跡を訪れた。同館は弥生文化に関する資料や情報を収集・保存・研究・展示する博物館で、全国で唯一、地元の遺跡のみならず弥生文化全般を対象としている。学芸員から米づくりや青銅器などの発祥や、社会のしくみができていった過程や卑弥呼の登場など、弥生時代の文化や生活について説明を受けた。また、同館に隣接する池上曽根遺跡では、大型掘立柱建物を見学した。

卑弥呼の食事の再現（弥生文化博物館）

▶2015年12月4日

富田林寺内町（じないまち）

大阪府富田林市

近世以降、南河内随一の商業地といわれた富田林寺内町を探訪。当地は室町時代後期の永禄初頭（1558～1561年）に興正寺別院の建立と町割の整備によってできた宗教自治都市で、江戸時代には商売が盛んな在郷町として発展。平成9年（1997）に国の重要伝統的建造物保存地区に指定された。ボランティアガイドの案内で商家の町並みを視察した後、寺内町に現存する最古の建物で江戸時代に造り酒屋として栄えた杉山家（国指定重要文化財）を見学した。

富田林寺内町にて

▶2016年3月29日

大阪府立 狭山池博物館

大阪府大阪狭山市

狭山池は今から1400年前の7世紀初めに築造された日本最古のダム式のため池で、『古事記』や『日本書紀』にも記載されている。狭山池は、誕生から今日にいたるまで数多くの大規模な改修工事を行ってきた。博物館では、そうした改修の歴史や各時代の土木技術などについて説明を受けた。明治から昭和にかけては、近隣地域の米の生産量を増やすため、国や行政の補助で改修。現在は治水機能を備えた近代的ダムへと進展している。

かつての土木技術について説明を受ける（狭山池博物館）

▶2016年10月14日

真田幸村の足跡を辿る（九度山）

和歌山県九度山町

関ヶ原の合戦（1600年）の後、徳川家康に命じられて高野山に蟄居した真田昌幸・幸村父子は、その後、高野山を下りて九度山に14年間定住した。その和歌山県九度山町を訪ね、九度山の語り部ボランティアガイドの案内で、真田の抜け穴伝説が残る「真田古墳」をはじめ、昌幸・幸村父子の屋敷跡に建てられた寺「真田庵（善名称寺）」や、同寺境内の「真田方宝物資料館」、「九度山・真田ミュージアム」を見学した。

真田庵にて

▶2016年10月26日

真田幸村の足跡を辿る（玉造～大阪歴史博物館）

大阪市天王寺区、中央区

大坂の陣（1614年、15年）で激戦地となった上町台地（真田山界隈）を探訪。講談師・旭堂南青さんの案内で、大坂冬の陣の際に幸村が築いた出城「真田丸」の跡地・三光神社や、幸村とその子大助の供養のため江戸時代に建てられた心眼寺（しんがんじ）、大坂城の鎮守として信仰された玉造稲荷神社を訪ねた。大阪歴史博物館では、幸村にまつわる新発見資料などを見学した。

旭堂南青さん

三光神社に残る「真田の抜け穴」

▶2017年3月8日

住吉大社と大和川・堺

大阪市住吉区

住吉大社・小出英詞権禰宜の案内で、同社の境内でフィールドワークを実施。その後は講演会場に移り、宝永元年（1704）の付け替え（流路変更）で大和川が住吉と堺を横断・西流したことにより、住吉大社の祭礼や神輿の道筋が変わったことや、土砂の堆積による海岸線の後退、新田開発などについて、古地図や古文書、屏風絵などを用いた説明を受けた。

小出英詞権禰宜と参加者

▶2017年6月22日

大和川のおいたち～付け替え工事

大阪府柏原市

柏原市立歴史資料館の安村俊史館長より、大和川の地理や付け替え工事について講義を受けた。大和川は奈良県桜井市の北東部に端を発し、生駒山と葛城山の間を抜けて柏原市に入り、大阪市と堺市の堺を西流して大阪湾に注ぐ延長68kmの一級河川。安村館長からは、宝永元年（1704）に付け替えが行われるまでは流域で洪水が頻発していたことや、14kmにおよぶ付け替え工事の内容、約8か月の短期間で完工した背景、付け替えによって生じた影響などの説明を受けた。

安村俊史氏

▶2018年3月16日

鴻池新田会所（こうのいけしんでんかいしょ）

大阪府東大阪市

大和川付け替え工事の後、鴻池善右衛門宗利とその子善次郎によって、流れが途絶えた川筋などに約158haの新田が造成された。鴻池新田会所は、そうした新田経営にあたって小作料の徴収や幕府への年貢の上納、新田内での争いの裁定といった管理・運営を行う施設で、240年にわたって使われてきた。現地では、学芸員からそうした説明を受け、当協会の堀井良殷理事長による調査報告も行われた。

鴻池新田会所内部（国史跡・重要文化財）